

## ～第 284 回定期演奏会で指揮を執る太田弦マエストロ 紙上インタビュー～

Q：日本センチュリー交響楽団とは、昨年 6 月に「豊中名曲シリーズ」でご一緒しました。この 9 月は定期演奏会に初出演いただきます。どのような想いでいらっしゃいますか。

僕がしばらく大阪でポジションを持っていたこともあり、実は今まで共演が少なかったセンチュリーさんと、このような大きな機会を頂けたことをとても嬉しく思います。素晴らしいオーケストラのポテンシャルを引き出せるよう努めたいと思います。

Q：今回、ブルッフとウォルトンという英国プログラムが並びました。それぞれ曲の魅力・聴きどころなどを教えていただけますでしょうか。

ブルッフのスコットランド幻想曲はただただシンプルに美しい曲だと思います。姉がヴァイオリンを弾くので、子供の頃から馴染み深い曲ですが、何度か演奏してみてもその思いが変わらない珍しい曲でした。

この曲を書いた時、ブルッフは実際にスコットランドを訪れていないそうではありますが、古き良きスコットランドはこんな感じだったんだろうな、という説得力があると思います。

ウォルトンはエルガー、ヴォーン・ウィリアムズに続くまさに英国の交響曲作家だと思っています。演奏するオーケストラはとにかく音が多くて大変ですが、見ないで聴くと 2 管編成とは思えないほどオケが鳴る迫力のあるカッコいい曲です。

ウォルトンの他の作品でも見られますが、最後のどこで拍手をしたら良いのか分からない感じなど、ちょっと意地悪な性格が見えるところも面白いです。

映画音楽っぽいと言われることもあります。ウォルトンは実際たくさん映画に音楽を書いていますから、そういった意味でも少し現代的な、20 世紀の感じをお楽しみ頂ければと思います。

Q：今最も勢いのある気鋭ソリストの一人、前田妃奈さんが出演されます。

2 年ほど前に共演させて頂いた時は確かメンデルスゾーンだったと思うのですが、しっかり自分の音楽をしながらオケの音を聴いて素晴らしく反応して下さり、凄いなと思ったのを覚えています。ご出身地でもありますし、足を引っ張らないよう全力でサポートさせて頂きたいと思います。

Q：センチュリーのお客様へ一言メッセージをお願いします。

ちょっと現代の我々の感覚とは違うところですが、モーツァルトやハイドンの時代には、知らない曲を演奏するというのがお客様に喜ばれることであつたそうです。

僕個人もそうだったのですが、ウォルトンは特に生演奏でないと良さが分かりづらいような気がしています。

ソリストが素晴らしいことは間違いありませんので、是非会場に足をお運び頂き、未知の交響曲もお聴き頂き、ウォルトンファンが少しでも増えることとなりましたら嬉しく思います。